書評

農政経済部
仁木隼人

新自由主義は自らを変革できるのか

矢口芳生・著

◇出版＝農林統計出版
◇価格＝2200円
◇副題＝地域ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を実現する
◇やぐち・よしお　1952年生まれ。81年東京大学大学院修了。農学博士。福知山公立大学名誉教授。早稲田大学招聘研究員。

未来への「諦め」断つ契機に

経済では全てを市場に委ね、生まれた格差は自己責任とされる―。こうした新自由主義の変革には何が必要か。農協改革をはじめ農政でも展開されてきた新自由主義的な政策を、岸田文雄首相も「転換」するというが、その体系的な姿は依然、はっきりしない。

本書では新自由主義の変革の解として、「能動的で協働的な持続可能な社会」を「共生社会」と位置付け、農村の現場でその実現を訴える。能動的＝過疎化などの逆行にも諦めず自ら動く、協働的＝多様な主体が自分事として課題に向き合い、解決に向け共に行動する、こうしたことの積み上げが持続可能な社会を導くとする。

持続可能な社会への変革を、本書では地域農業の現場に落とし込んで解説する。「成功例」として挙げるのが各地の農事組合法人などの実例だ。自給的農家や兼業農家らも協働して農地や水路など資源を維持管理し、その土台の上で担い手層が営農を展開し、地域資源を生かし農産加工や農泊などにも踏み出す。これまでの日本農政が育成に重点を置いてきた「規模拡大のプロ農家」とそれ以外という二極分化ではなく、多様な主体が「共生」する地域農業システムの価値を提示する。

一方、人口減などで持続性そのものが危ぶまれる地域が存在するのが実態だ。未来を見通しにくい中でどう変革の糸口をつかむのか。本書では未来への「諦めを断ち」動き出す人材の存在が重要だと指摘。人材不在の地域でも、市町村やＪＡ、農業改良普及センターが人材を養成し、養成期間中は代役を果たすことも必要という。今後、各地域で求められる、農地利用の将来像を描く「人・農地プラン（地域計画）」の策定も、こうした指摘の実践の機会となるだろう。

地域に縛られずとも、交流サイト（ＳＮＳ）を通じ目的を共にする人材とつながる「アソシエーション（接続）」型の共生など、新たな可能性にも言及する本書が、多様な人々が「諦めを断ち」、動き出す契機になることを願う。

6次産業化

松原豊彦・編著

副題は「食と農に架ける橋」。農業・農村の6次産業化は1990年代中ごろに、今村奈良臣東大名誉教授が提唱した。その後、農水省の重点政策に位置付けられ、2010年に「6次産業化・地産地消法」

る作業の必要性を、課題として挙げている。本書はまず、このことを作業として取り組んだ。次いで、この研究に必要な農業経済学、経営学、食品加工学、観光学など、関連する分野の研究者によ

都市農家・地主の税金ガイド

清田幸弘・編著

副題は「経営者と後継者のために～正しい税金の知識こそ、節税への近道」。編著者は農業の税制に詳しく、ランドマーク税理士法人の代表税理士を務める。毎年出版されている書籍の、令和4年度版だ。この年度の税制改正では「成長と分配の好循環」を実現しようと、法人課税では、賃上げ促進に係る税制措置が拡充され、税額控除率の大幅な引き上げが行われた。個人所得税では、住宅取得など資金贈与の非課税措置、住宅ローン控除の適用期限の延長などが行われている。

冒頭では主要な改正ポイントをまとめている。本書により正確な税知識を得て、都市農家・地主の経営改善、節税、事業承継などへ活用することが望まれる。

（税務研究会出版局、1760円）

NHK俳句 厨に暮らす

宇多喜代子・著

『NHK俳句 暦と暮らす』の続編。副題は「語り継ぎたい台所の季語」。昭和時代の家事と季語の逸話を集めた一冊だ。書名の厨は台所の意味で、昭和の台所や食卓にまつわる俳句や、庶民のレシピが満載である。

1章には、「昭和の台所」と題して行った、著者と俳優の小林聡美さんとの対談を収めている。続く「季節の台所」の章では、4月から翌3月までの、台所や食卓を題材にした季語と俳句を収載。さらには、庶民が家庭で食した料理のレシピが紹介されている。

昭和という時代、家は台所と食卓で、町は節句と祭りでつながっていたという。つましく、笑顔にあふれた日々の姿に、懐かしさと感動を覚える本である。

（NHK出版、1650円）

花と器の素敵な合わせ方

小川典子・著

癒やしを求めて自宅に花を飾る人が増えている。そんな初心者向けに、手軽でおしゃれに見せるアイデアを紹介する。身の回りの雑貨を使った例は、ジャム瓶や紅茶缶に始まり、エコバッグも器になる。複数の小さなグラスに生けて、皿や敷物にまとめて並べると、洗練された雰囲気になる。

花の専門誌での5年間の連載をまとめた。薬を水に沈めた涼しげなアレンジなど、季節ごとの花と器の写真は素敵で、見るだけで楽しい。「身近な雑貨と季節の花の掛け算は無限大」という著者の言葉通り、花と器探しを始めたくなる。巻末には12月の旬の花図鑑付き。香りが良い、水換えの手間を減らしたい。すぼらさん、向きなど、花の特徴も分かりやすい。

（誠文堂新光社、1760円）

おすすめ書店